Ｎａｇａｏｋａ　Ａｒｃｈｉｖｅｓ　　令和２年（2020）３月31日発行

長岡あーかいぶ 第18号

編集･発行／長岡市立中央図書館文書資料室　　http://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp/?page_id=134







戦後75年
写真にみる 市街地・施設の復興と長岡

文書資料室は、市民からの寄贈や市史編さん事業によって収集・保存した記録写真を所蔵しています。これらの写真は、戦後復興期の長岡駅前・互尊文庫・科学博物館を市職員が撮影したものです（H1704 新潟県産業博覧会他写真）。

昭和20年(1945)８月１日の長岡空襲からの復興は、罹災者の生活支援、焼失した市街地の整備、公共施設の再建などを軸に進められました。昭和21年には復興祭が開催され、翌年には花火大会も再開。復興に向けた市民の気運を高めました。

新潟県産業博覧会（通称は長岡博）は、昭和25年７月20日から43日間の会期で開催された戦災復興５周年の記念行事です。敷地面積は約２万坪、事業予算は約１億３千万円。開催にあわせて駅前広場や大手通りが整備され、会場内に立ち並んだ展示館は地域の諸産業を内外に発信しました。

昭和28年11月、長岡市は全国の戦災都市に先駆けて復興都市計画事業完工式を挙行します。３枚の写真は、商工都市長岡の復興と躍進に向けて奮闘する先人たちの息吹を今に伝えているのです。

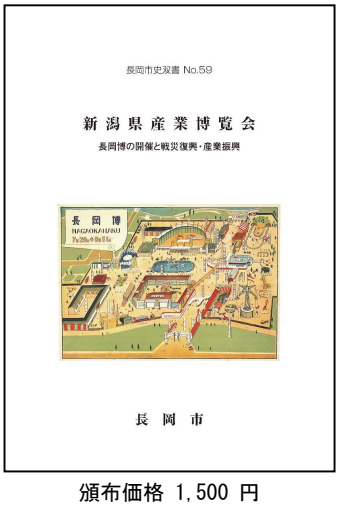
左：長岡博開催中の長岡駅前より大手通りを望む（昭和25年）
「新潟県産業博覧会」の文字が記された広告塔の下は案内所になっていました。右へ向かえば本会場（現神田小学校付近）、左へ向かえば農機具館（現長岡グランドホテル付近）。手前の緑地帯は新しく整備されたグリーンベルトの一部です。

右上：再建された互尊文庫（昭和23年）
空襲で蔵書を焼失した互尊文庫は、内藤伝吉の寄附等によって明治公園内に木造で建築されました。記念写真に写っている人物は、松田弘俊長岡市長ほかの関係者です。

右下：悠久山に開館した科学博物館（昭和26年）
北越製紙の寄附や市長らによる募金活動をもとに新築されました。北越製紙社長で参議院議員・郵政兼電気通信大臣の田村文吉が設立に尽力。新潟県の登録博物館第１号です。

長岡市史双書 No.59
『新潟県産業博覧会 長岡博の開催と戦災復興・産業振興』
最新刊！

長岡博の概要を紹介する歴史資料集。ポスター・会場鳥瞰図・要綱・出品目録などの関係資料とともに、新聞記事や幻の博覧会誌を収録。46万人の入場者を集めた長岡博の経験に何を学ぶのか。戦災復興と産業振興を目的に開催された長岡博のすがたを探ります。



頒布価格 1,500 円
B5 版・155 ページ

令和元年度　文書資料室活動報告

【古文書解読講座】

今年度も長岡郷土史研究会との共催で、初心者向け・経験者向けの各講座を開催しました。

初心者向け講座「古文書のいろは」（５・６月開催）は、古文書やくずし字の基礎を学習。全３回、のべ115 人が受講しました。

経験者向け講座「古文書に見る長岡のすがた」（９・10 月開催）は、幕府の記録や村の御用留、日記など多様な文書をテキストに長岡の歴史を読み解きました。「すがた」は昨年度より中央公民館での水曜夜間コースに加え、中央図書館での日曜午後コースを設け、より多くの方々に参加していただけるようになっています。今年度は両コースをあわせて、全４回、のべ 228 人が受講しました。



中央図書館での「すがた」の一コマ。小さめの会場で和気あいあいと講義が進みます。

【長岡市史双書を読む会】

今年度の「読む会」は、長岡市史双書№58『蔵王権現領安禅寺御用記 日並記・諸掛合留・諸願書留』をテキストに、10 月に開催しました。従来の座学に加え、現地見学会を企画しました。

見学会は定員を 20 名に設定し、２回行いました。バスで中央図書館を出発、雨池町を通過し蔵王橋を渡り、柿川排水機場で下車。柿川と信濃川の合流地点を眺め、王神橋を見学しながら金峯神社境内へ。神社や安禅寺で解説を聞き、旧参道を確認しながら極楽寺・北御蔵跡まで歩きました。

台風の影響が心配されましたが、両日とも晴れ、事故もなく予定のコースを皆で完歩することができました。実り多い秋の一日となりました。



金峯神社境内の案内看板を見ながら、かつての建物の位置を確認しています。

☺☺☺ 長岡市資料整理ボランティア ☺☺☺

【定例活動】

長岡市資料整理ボランティアは、中越地震で被災した資料の整理・保存等を目的に、平成 17 年（2005）10 月に発足しました。現在、月に１回程度、「新聞資料整理班」と「古文書整理班」に分かれて活動しています。新聞資料整理では全国紙から災害に関する記事を切り抜く作業を、古文書整理では古文書をクリーニングし、目録をとる作業を行っています。

令和２年度も引き続き定例活動を行います。誰でも楽しく参加できる整理作業です。興味のある方は文書資料室までお気軽にご連絡ください。



素晴らしい集中力で資料整理に取り組みます。

【十日町市古文書整理ボランティアとの交流会】

交流会は平成 18 年から始まりました。今年度は 10 月３日（木曜日）、十日町情報館を会場に開催されました。長岡市、十日町市からそれぞれ９名が参加しました。

当日は、十日町市古文書整理ボランティアの写真整理チームが整理・展示した写真展「第 11 回山内写真館資料写真展」を見学しました。午後から関連イベントとして開催された「「昔の十日町」映写会＆「わたしの１枚」発表会」に出席しました。また、昼食会では、ボランティア同士で情報交換を行い、交流を深めました。



翌年の再会を約束して記念撮影。

連載　長岡の碩学⑱

田村文吉　1886（明治 19）～1963（昭和 38）

北越製紙と田村文吉　明治 19 年（1886）、田村文吉は古志郡長岡町神田一ノ町（神田町１丁目）で紙問屋を営む父・文四郎の三男として生まれた。表町小学校から長岡中学へ進み、在学中は英語を得意とした。学業の傍ら、配達や集金など家業の手伝いもよくしたという。日露戦争後の好景気と洋紙需要の高まりを好機ととらえ、父が「越後平野に無限に眠る稲藁を原料にした板紙工場」すなわち「北越製紙株式会社」を同 40 年に設立するまでの過程を、間近で見ていたのである。

東京高等商業学校（一橋大学）専攻科を卒業後、越後鉄道に入社する。30 歳で退社して長岡に戻ると、関東にも工場を構える大製紙会社に発展していた北越製紙に入社し、父の片腕として働きはじめた。戦争や不況、関東大震災等の苦難を乗り越え、昭和 15 年(1940)に社長に就任した。

昭和 20 年８月１日の長岡空襲により長岡市は焦土と化し、鶴田市長は殉職した。戦前から長岡市工業会会長や新潟県商工経済会会頭を歴任し、当時既に長岡の名士として人望を得ていた文吉は、推されて戦後初の長岡市長となる。同 22 年４月に参議院議員当選を果たすまで、住宅の建設、食料の確保、教育施設の再建、区画整理など、長岡の戦災復興に力を注いだ。

文吉の功績の中から、主に積雪研究に関する事項を以下に特記する。

積雪研究会の設立　長岡に暮らす人々にとって、冬の積雪は避けられないものである。文吉は常から、雪害のため市民の生活が逼迫することを憂いていた。そこで、雪を研究して雪害を防止することや、積雪の有効利用について着目し、長岡工業専門学校（新潟大学工学部）の積雪研究所設立に賛同、協力した。さらに北越製紙から多額の財産を寄付し、同研究所を財団法人積雪研究会として立ち上げ、自ら理事長に就任したのである。

積雪科学館　会の附属機関である積雪科学館は、「雪国を救うものは雪の科学である」という趣旨のもと、文吉の発意によって開設された。研究部と普及部が置かれ、研究部では、後に南極での活用につながった雪上車の研究や、消雪パイプ敷設に寄与した「地下水による融雪促進方法」研究などが進められた。普及部では、雪国の住宅模型や生活民具を展示し、雪にまつわる書籍を取りそろえたり、雪の結晶実験装置を設置したりして、専門家から市民まで幅広い層に利用された。

『まどのゆき』は、毎年 10 月から３月にかけて発行された積雪科学館の機関誌である。昭和 31 年 10 月発行の第 13 号には、同年７月の皇太子御訪問の記事が掲載されている。文吉は皇太子を前に、当館の研究が結実し雪国の実生活にいかされていること、県内の小中学校と連携して積雪調査を継続していることなどを奏上した。今でこそ小雪で過ごしやすい冬も珍しくはなくなったが、当時の雪は一歩間違えば市民の生活を脅かすものに豹変した。文吉は並々ならぬ熱意を持って克雪に努めようとしていたのである。



▲積雪科学館の刊行物（長岡市立中央図書館所蔵）

長岡博「雪の科学館」　昭和 25 年に開催された新潟県産業博覧会（長岡博）の会場内には、約 30 もの展示館が開設され、連日大勢の観覧客でにぎわった。

なかでも「雪の科学館」は、雪の結晶を模して六角形に造られており、ひときわ目立っていた。屋根には雪を、軒には氷柱を施し、内部は常時冷房を効かせ、入場者に豪雪地長岡をイメージしてもらえるよう工夫されていた。

館内の主な出展は積雪科学館が担い、所蔵品の中から多くの資料が陳列された。真夏の開催にもかかわらず、踏み俵・縋（すがり）・藁帽子などの雪国特有の民具や、プロペラ駆動式雪上自動車といった最新の雪上車が展示され、積雪と結びついた雪国の生活とその発展を、入館者は目の当たりにできたのである。



▲長岡博「雪の科学館」

文吉は昭和 38 年６月に死去、数多の功績をもって長岡初の名誉市民となった。積雪科学館は同 43 年に閉館し、その業績は長岡市立科学博物館に引き継がれ、現在に至る。

【主な参考文献】
『北越製紙百年史』（北越製紙株式会社、平成 19 年）

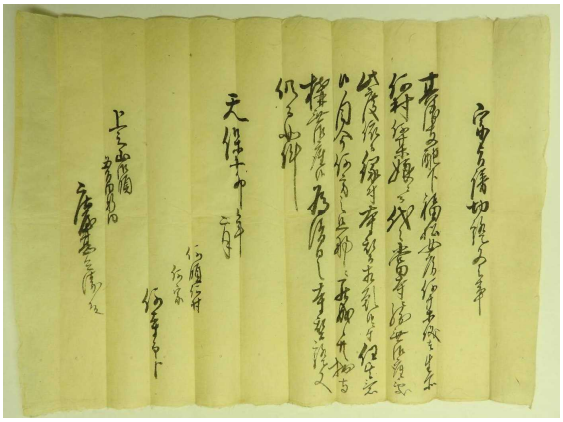
《新たに公開した所蔵資料一覧》※寄贈・寄託順。保管場所の都合等で当日閲覧できない資料もあります。

- 古志郡加津保沢村鈴木家文書（近代、80 点）
- 刈羽郡相野原村田中家文書(近世～現代、3,890 点)
- 古志郡栖吉村新井家文書（近世・近代、191 点）
- 関東大震災写真 ほか（近代、４点）
- 古志郡楡原村小林家文書（近・現代、326 点）
- 古志郡十日町村文書（近世・近代、45 点）
- 長岡市厚生会館写真（現代、１点）
- 三島郡飯島村細川家文書（近世～現代、1,044 点）
- 古志郡乙吉村武樋家文書（近・現代、117 点）
- 栃尾町長谷川家資料（近・現代、75 点）
- 古志郡宮内町資料（近代、１点）
- 北越新報三点（近代、３点）
- 三島郡五反田新田文書（近世～現代、596 点）

（令和２年２月末日現在）



▲天明 4 年(1784)「新刻頭書　御成敗式目」
（刈羽郡相野原村田中家文書）
「御成敗式目」は、鎌倉幕府が定めた武家法です。江戸時代には手習本として版本が流布します。相野原村（小国地域）の庄屋家の蔵書には擦れや破れがあり、学びの足跡を知ることができます。



▲天保 10 年(1839)「宗旨請切証文之事」
（三島郡五反田新田文書）
上之山藩領五反田新田（関原地区）の寺院が庄屋へ提出する証文の記載見本です。江戸時代の檀家制度では、婚姻による村人の移動があった場合、檀那寺からの寺請証文の作成が必要とされました。

捨てないで！　水濡れ・泥汚れ…その資料、救えるかもしれません

昨年 10 月に発生した台風 19 号は、関東地方から東北地方に及ぶ広い地域に甚大な被害をもたらしました。長岡市内でも浄土川の氾濫により、今井地区を中心に浸水被害をうけました。

このような災害では、片づけや復旧作業を行うなかでさまざまなものが廃棄されます。紙の資料も同様です。確かに書画やアルバム、古い文書や記録などは、水や泥で汚れてしまうと処分するしかないように思われるかもしれません。生活の再建を第一に考えなければならないときにはなおさらです。

しかしそのようなものでも、適切な対処をすればある程度もとに戻せる可能性があります。今回の台風被害においても、各地で資料が救出され、現在も乾燥・修復作業が続けられています。

災害は起きないに越したことはありません。ですが万が一被災され、資料の扱いに困ったとき、または周りに困っている方がいらっしゃるとき…まずは文書資料室までご連絡・ご相談を。災害への備えのひとつとして、心に留めておいてください。

※文書資料室は新潟歴史資料救済ネットワーク（事務局:新潟大学）と連携しています。
URL　http://nrescue.s1006.xrea.com/



台風 19 号で被災した資料にキッチンペーパーをはさみ、吸水している様子（於：長野市立博物館）。放置するとカビや腐敗臭が発生するので、早めの対応が肝心です。

《編集後記》今回の機関紙では、市史双書、古文書解読講座、市史双書を読む会、資料整理ボランティアといった文書資料室の活動の柱をご紹介しました。歴史資料の保存・活用に向けて、本紙が文書資料室と地域の所蔵者・研究者を結ぶ一助になれば幸いです。（文書資料室長）

令和２年３月 31 日発行
編集・発行：長岡市立中央図書館文書資料室
〒940-0065 新潟県長岡市坂之上町 3-1-20(長岡市立互尊文庫２階)
TEL 0258-36-7832　FAX 0258-37-3754
E-mail：monjo@lib.city.nagaoka.niigata.jp